

伊勢新聞に見る明治・大正期の海女

附・観光海女の歴史(序)

2010/6/21 海女研究会 塚本明(三重大学人文学部)

はじめに

伊勢新聞：明治11(1878)年創刊、現在まで続く地方紙。

三重県の近代史を検討する上で重要な史料媒体。→海女関係記事採録作業。

*明治期はほぼデータ化終了。大正期は部分的に採録。昭和期(戦前)はごく一部。

新聞記事と聞き取り調査記録

瀬川清子『海女記』：明治24,5年頃に利尻島・礼文島へ出稼ぎの‘とら’の聞き書き。

新聞記事：明治26年、‘とら’たちを連れて雇用主と利尻島で出会った者の記事。①

一、海女に関するいくつかの問題群

1、海女の出稼ぎ記事

志摩の各浦村から熊野灘、北海道(利尻・礼文)、朝鮮半島へ。

「雑報」記事中心。規模、体制、時期的変化の概略を知ることができる。

→塚本「近代の志摩海女の出稼ぎについて」『三重大史学』10、2010年3月)

2、海草類の情報

寒天加工用天草等。テングサ以外の海草も多い。

鶏冠草、鳥足草、明治26(1893)年イギスを御木本が売出す②。荒布(沃度)、和布。

大正9(1920)年3月、北牟婁郡の磯売りの状況。落札者の寡占状況。③

輸出相場による影響。

3、潜水器の使用

明治16(1883)年7月11日、山田岩淵町の箕曲亀哉が船越で潜水器使用を申請、認可(神島文書で関連あり)。

明治17(1884)年、片田村で潜水器使用、海女漁の数十倍！④

4、海難救助と海女

明治44(1911)年11月24日春雨艦難破、長岡・安乗・的矢海女が死体引き上げ。⑤

*駆逐艦春雨艦が管崎附近で座礁、死者45人。海女らが8名を救助。

大正3(1914)年8月4日、海岸で行方不明男児捜索に尾鷲町森奥四郎の海女が捜索。

大正3(1914)年11月8日、漁船転覆、志村青年団と海女10名が探索、死体発見。

大正11(1922)年8月23日、磯部漁船転覆、同村海女数十名が出動、死体発見。

大正13(1924)年7月6日、波切村で水泳中溺れた少女を海女が発見、救助。⑥

[参考] 慶長14(1609)年9月に、スペイン領フィリピンからメキシコへ戻る途中の

サンフランシスコ号が千葉県沖で座礁、300人以上を御宿町の海女や漁民らが救助。

*江戸時代の海難救助史料の海女？！

5、海女作業の見物記事

明治32(1899)年4月26日、曾根農林大臣が御木本真珠養殖場巡察。

海女の真珠貝採取風景を見物。大臣は満悦で海女と一緒に写真撮影。⑦

明治44(1911)年5月、明治天皇の皇后(昭憲皇太后、1869-1914)の来訪。⑧

5月20日外宮参拝、翌日内宮参拝、その後二見へ(18日東京発、23日帰)。

御木本幸吉、二見館で準備。海女小屋設置。熟練海女40余名厳選。17,8～27,8歳。

作業服は白襯衣(シャツ)、白股引に白い湯巻。

数日前に15万余個の真珠貝から美しい真珠を銜むものを選び、海中に放飼。

5隻の真珠採舟に10人ずつ分乗、多数の真珠を採取して献上→皇后は大満足。

明治44(1911)年7月21日 鳥羽線開通式余興の海女作業。服装は皇后来訪時に倣う。⑨

大正12(1923)年5月6日 良子女王(後の昭和天皇后、香淳皇后1903-2000)来訪。

二見～鳥羽樋の山へ。答志島の海女の作業を見物。⑩

二、「観光海女」の前史

1、真珠と海女—御木本幸吉の「戦略」—

*明治44(1911)年6月25日 鳥羽港近くに「蟹婦作業場」新設計画。⑩

従来も遊客の目的は日和山の眺望と菅島の鮑取作業遊覧。鳥羽線開通後の遊客増加のため、停車場附近「縁期松角より戸島」の海面を借り受け、作業場に。→真珠島へ？

2、地方博覧会と海女館

明治43(1910)年、第10回関西府県聯合共進会(名古屋市)、「空中海女館」？

大正14(1925)年、大連勸業博覧会

昭和5(1930)年、復興記念横浜大博覧会、海と空の博覧会(東京)

昭和6(1931)年、小樽海港博覧会(「海女作業実演、朝鮮海女の海水飛込」)

昭和7(1932)年、満蒙軍事博覧会、産業と観光の大博覧会(金沢市)

昭和8(1933)年、祖国日向博覧会(宮崎市)、観光産業博覧会(奈良市)、

万国婦人子供博覧会、満州大博覧会(大連市)

昭和9(1934)年？ 国防と教育博覧会(新潟市)、国際産業博覧会(長崎市)

昭和10(1935)年、横浜大博覧会、国防と産業大博覧会(呉市)、振興熊本大博覧会、

台湾博覧会大会(台北市)

昭和11(1936)年、姫津線全通記念産業振興大博覧会、日満産業大博覧会(富山市)

昭和12(1937)年、汎太平洋平和博覧会(名古屋市)、北海道大博覧会

昭和14(1939)年、興亜博覧会(山形市)

昭和16(1941)年、大東亜建設博覧会(秋田市) 「海女実演館」

昭和24(1949)年、日本貿易博覧会(横浜市)「水中レビュー館」

昭和25(1950)年、婦人子供大博覧会

昭和25(1950)年、北海道開発大博覧会(旭川市)

昭和32(1957)年、佐賀産業観光博覧会

海女と真珠の結びつき。建物は竜宮城風。

船越の興行師、田中幸吉の介在（福田清一の指摘）。

*御木本の関与は？ 大連勸業博覧会には真珠を出品。

二見水族館、松阪などでも実施。⑫、⑭

3、鳥羽・志摩の観光パンフレットと海女

旅館など、海女の実演、採った獲物のお土産を宣伝。

志摩のイメージ＝「海女と真珠の志摩」。

鮑や栄螺を採る海女→真珠採りの海女に収斂されていく？

「猟奇的」志摩。⑬、⑮、⑯

伊勢と志摩の結び付け→伊勢志摩国立公園へ。

*仕掛け人：御木本／近鉄（大軌・参急・志摩電）／鳥羽保勝会（観光協会）…。

4、江戸時代の「観光海女」

浮世絵に見る海女

春画の題材。真珠との関係。二見の夫婦岩が舞台のもの多し。

二見＝真珠＝海女の結び付きも？

『伊勢参宮名所図会』中に見る海女

伊勢湾（阿漕が浦）辺での海女。⑰

香良洲の磯で海女を雇い「興とす」！ 「観光海女」。上方でのイメージか。

二見浦：「あまのしわざ」「あまの住家」 * 「海士」との区別は付かないが…。

在地文書に見る海女（二見荘区有文書）

明和9(1772)年3月、京都御所の長橋局が参宮の後、二見へ。⑱

「あまをよび鮑をとらせ、網を引かせ御慰有之」

実は長橋局ではなく仙洞御所との噂。（事実とは違うか）

*江戸時代には、伊勢参宮後に二見で海女見物をするというコース？

伊勢参宮に訪れる者たち（京都の公家らも含め）、海女と真珠と結びつくイメージ。

→近代以降、御木本（ら）により、新たな観光戦略として展開。

おわりに

伊勢と志摩（海女）の結び付きは、鮑の献上のみではない。

元々旅のルートとして連動。伊勢参宮後は二見、志摩巡りへ。

→「伊勢志摩国立公園」の成立。

*どの段階で分離？

海女の生業の多様性。海女（獲物は様々）／海草等を拾う／漁の手伝い／出稼ぎ／
「観光海女」もその一つ。歴史性を有する。

①明治二六（一八九三）年七月二日 [利尻島出稼海女]

余は 離島に於て縣地の人に遭ふ、姓は井上名は太市氏、志摩国越賀村の人なり、夙に水産の熱心家なり、曾て本島の水産に富みたるを聞き、石花菜を取らん為め潜婦三十余名を伴ひ数ヶ月以前より来り居るものなり、偶然相逢ひて握手して語る、此絶域にして縣地の人に逢ふ、怡悦の情は語たるを俟たじ（中略）

余が此地を去らんとするの時に際し又々志摩国前島地方より潜婦廿余名の上陸するを見る、之を伴ふ人は片田村橋本三郎右衛門氏にして之れが手引を為せしは東京銀座安売の隊長宗谷岬の鯨取兼開墾百姓岩谷松平氏なりといふ、余之を聞く利尻島に在ては潜婦の来つて石花菜を尽さん恐れ、其採取を拒むものありと、若し村民の之を拒むあり而して又他に潜婦の数十名の多きに至らば礼文一島何程の産額かあらん、余は唯々此等の人の此絶域に来て帰途に齎らす土産の饒多ならんことを切望す、転た憂慮する所なくんばあらず

②明治二六（一八九三）年九月三日 [海草]

○志摩海産の遺利 志州近海には一円イギス一名浮菊姑と称する海藻を生じ居りしも、本年迄に何人も之を知らざりしに、此程鳥羽町の水産家御木本幸吉氏之を発見し盛んに売出を試みしに、一貫目二銭五厘より追々上騰して八銭、十銭、十一銭五厘の相場となりたりし由なるが、此イギスと云は寒天製造には極て必要の原料なれば、最初之を買取たる志摩の中村某氏の如きは一ヶ月間に四百円余の利益を得たりと聞く

③大正九（一九二〇）年三月一日

北牟婁沿岸 石花菜 採取 事業町村自営計画

北牟婁郡沿岸に於て採取する海草中の石花菜は従来其生産地所属の町村に於て採取権を有する為め、毎年競売入札に附し採取せしめつゝありしが、各採取事業の経営は尾鷲町小林与四郎、長島町東茂七及松田某、三野瀬村石原荘之丞四人の外殆んど又他郡区よりの入札なきより、前記四人協定して各其区域を定め置き入札する事とて、其価額低価にして当業者は毎年相当の利益を占め得居るも、今日迄各町村に於て自ら採取販売せし経験なきを以て其採取高の統計並に利益の関係如何を知らずして、唯従来之習慣に拠り漫然入札競売に附するを例とす（せか）しが、今回或一部の有志は其採取を町村の経営と為す時は予想以上の習得を見、町村財政の一部を補ふに足るべしと説くものありし際本年は右採取に従事せし海士の本拠たる志摩国答志島及御座の海士組合より其採取賃金に就き目下諸物価及賃銀の昂騰を理由として生草一貫目採取賃金二十五銭を三十銭に引上を交渉し来れるのみならず昨年来支那に於ける日貨排斥の結果製品寒天の輸出殆んど杜絶し、為めに価格の低落せしより前記の採取経営者は本年の入札は非常の低落安価ならでは入札に應ぜざる模様なるより、町村当局者は此際各町村の自営となし、各町村聯合にて潜水夫を雇ひ採取せしむる計画を為し、目下其方面に向つて国会並に交渉の歩を進めつゝあり、其結果如何は機知難きも、或は本年よりは入札に附せず各町村自営の事となる可きかと云ふ

④明治十七（一八八四）年一月五日 [潜水器]

○潜水器 県下志州英虞郡片田村所属の海面にて潜水器を使用して鮑漁を為すことは従前より其可否一決せずして、一時は使用しかたき場合もありしが、村内にて重立ちたる者は

海婦の取り得ぬ鮑の暗礁に多くあるを惜しみ、大に潜水器施用の事を主張せしに、此度は賛成者も頗る多くして、先づ試探の為に口月十三日より六日間潜水器を施用したるが、其捕採高五百五十七貫目にして此代価金八百三拾三円九拾貳銭なり、之れを通常海婦の捕獲法に比すれば殆んど数十倍の収益なるやも知れずと、依りて爾来は一層此施用を盛大ならしめんとて村内挙りて奮発し居ると云ふ、干鮑は我県輸出産物の重なるものなれば、爾口其収利の多からん事こそ願はしけれ

⑤明治四四（一九一一年）二月五日〔海難救助〕

志州濱の女王 三名の蟹婦が果敢なき艦長の骸を抱く

志摩国菅崎沖の底に藻屑と消え果てたる春雨艦乗組男将勇士の果敢なき骸を殆めとして、武器雑器具の末迄も悉く志州名物の蟹の口弱き手に引揚げられしは既に報ぜる所なるが、同地方にては古より溺死体を手厚く取扱へば豊漁ある由の云ひ伝へさへあるに、殊に今度の遭難者は名誉ある帝国海軍の将士なる事とて、五十余名の手弱女が殆んど昼夜の別ちもなく食事も碌にせず、休息も碌にせず、真に身命を擲ちての活動振りには目覚しくも亦嬉しかりき、特に彼の児玉艦長の屍体を発見せし折などは、尚多少の温味ありとかにて、三名の蟹は交る々々艦長の果敢なき骸を抱きて我が身の体温もて頻りと温め、実に溢れ出づる赤誠をもて万一の蘇生もと希ひしなどは後の世迄も語り伝ふべき忘れ難き美しき誠にこそありけれ（後略）

⑥大正十三（一九二四年）七月六日

危い命を蟹婦のお蔭で助かる

志摩郡波切村松井升五郎二女久（九つ）は七月三日午後二時頃同村宝門濱にて水泳遊び中誤つて深みに沈み溺れんとするを、蟹婦が発見して駆け付け海中にもぐりて抱きあげ、直に和氣、野家兩村医の来診を乞ひ、水を吐かして人工呼吸法を行ひたる結果、漸く一命を取止めた

⑦明治三二（一八九九年）四月二十六日〔観光海女〕

○農相海士（あま）と撮影す 去廿三日曾根農相の志摩郡神明浦なる御木本幸吉氏の真珠貝養殖場を巡察するや、手から数個の真珠貝を獲て其喜び大方ならざるを見て御木本氏は同地の海士を雇ひ来りて真珠貝を採取せしめたるに、農相はホト々々満悦の体にて源氏の君の須磨の磯辺の風流に擬へんとにや、此藻塩たく海士の姿を写しもて東の家土産にせばやと海士一同を招きて己も其裡に打交り、諸共に撮影せりとぞ、浜風に吹き曝されし結髪櫻欄の如く口顔洪紙の如き海士の容貌と並び立ちて此風姿も光君とこそ見え給はめ

⑧明治四四（一九一一年）五月二十三日

●天然真珠の献上 陛下御満足の御嘉納

前号山田電報に見ゆる如くに二十一日 陛下二見御成の際御覧の光榮を担ひたる真珠採取漁船作業の詳細を記さんに、御木本場主は数日前より二見館に詰切て数多の工夫を督して六角形の暖小屋二棟を同館より程遠からぬ海岸に設らへ、蟹婦が潜水前後に於ける体温を

暖むる箇所に充て、海婦は特に其筋の命令に依りて健康診断を行ひ斯業に最も熟練したる酷寒に於ても尚ほ一時間以上水中の寒冷に堪へ得べき者、楠野、はる、かの三女を始め年齢十七八歳以上廿七八歳迄の者四十余名を選抜し、又作業中不敬等のことなき様作業服には白襯衣、白股引に白き湯巻を纏はせ、五隻の真珠採船に十人づづ分乗せしめ、水夫は曳々声にて暖小屋附近より漕出し、数日前より御木本場主が十五万余個の天然真珠介中より美麗なる真珠を銜み居るを認たるものを放飼したる夫婦岩東方五六町の海上に漁船を止め、蟹婦は交る々々に深く水中を潜りて採取したる真珠介を御休憩所なる御前に進め参らせたるに

陛下には整理を命じ給ひたる仰を畏み養殖場支配人久米楠太郎、東京工場支配人斎藤真吉の兩名は、恐る々々御前に進みて介殻を整理し御覧に供したるに、十数個は真珠を発見せざりしも其他悉く金色銀色の漫然たる光沢を有する天然真珠を獲たれば、其儘全部を献上し奉りたるに 陛下には最とも御満足に御嘉納遊ばされたり、尚ほ御休憩所に於いて台覧に供し奉りたる真珠の盆景は場主所蔵の金、銀、黒、瑠璃、桐五色の天然真珠大小六百余个価格十万円のものを用ひて、五尺鉄の黒塗大長板へ精巧なる真珠ずくめの五ヶ所口口島盆景を御覧に供したる盆景中旭日に形りたる大真珠は其色金色にして価格は一個二万円のものなりと

⑨明治四四（一九一一年）六月二十三日

●蟹婦作業余興 来る七月二十一日執行すべき鳥羽線開通式余興の蟹婦作業は御木本真珠養殖場の蟹婦之に当り、其服装は総て皇后陛下台覧の時の如しとぞ

⑩明治四四（一九一一年）六月二十五日

●蟹婦作業場新設計画 従来鳥羽を訪問する遊客の目的は日和山の眺望と菅島の鮑取作業の遊覧とに在りて、鳥羽線開通の上は一層此等遊客の頻繁を来すべきを以て、御木本幸吉氏は将来鳥羽港に於て鮑取作業を縦覧せしむる為め今回停車場附近なる縁期松角より戸島に至る海面一帯を借受け、之を蟹婦の作業場となすべき計画中なるが、蟹其の他浮遊魚の捕獲は差支無きも、海鼠貝類海藻類の採捕は作業に害あるを以て専用漁業権者たる鳥羽漁業組合に対し若干の代償を為す筈なりと

（*七月二日、毎年鳥羽組合へ五十円、小浜組合へ百五十円を弁償する契約）

⑪大正十二（一九二三年）五月六日

川曳の勇ましい実況をレンズに納め給ふ 女神の如き良子女王殿下の御容姿川岸一帯の拝観者無慮五万人

神宮御参拝を終らせられ御前十一時五旅館祭主館に入らせられた良子女王殿下（中略）

夫婦岩の辺りに降り立たせられて 二見浦の風光御賞観（中略）

鳥羽台湾館前に記念の御手植 望遠鏡で海女の作業御覧

五日午後三時十分自動車にて鳥羽町御着、字本町鮫屋横町に御下車、直ちに腕車に御乗替日沖鳥羽警察署長先駆を承り御道筋を緒列する多数拝観者に御会釈を賜ひ静かに樋の山へ

御登臨あそばされ、御休憩所の台湾館に入らせられ眼下の風光を御口賞ありて、同館に備へある卅五倍の望遠鏡を御手に殿下は交々御口あり、三里を隔つる答志島の海女の作業を手に見ゆる如く見ゆるを御感興あらせられ、柴田本県知事を顧みて色々御下問あり（後略）

⑫昭和七（一九三二）年四月一〇日

数頭の海豹を飼育 二見浦水族館で 近く会社組織にする

県下唯一の二見浦水族館は大漁の収容と海女の実演で人気を博してゐるが、最近参宮客の激増と共に入場者が殺到するので、現在では館の狭隘をつける状態に立至つたので、同館では従来森文三郎氏の個人経営だったのを廃し、新に資本金五万円の株式会社とし鈴木順太郎氏を社長として組織を拡大し館の面目を一新する事になつた、工事は六月ごろから着手の予定で、本館裏に更に魚槽二十個を増設、鳥羽街道に噴水池をも設け水禽類をも収容し、大拡張を行ひ、教育参考資料を多く収容、完璧を期すると共に近く数頭の「アザラシ」を飼育し興味を呼ぶ事になつた

⑬昭和七（一九三二）年一月二二日

海女の鮑採や娼妓の舞踏 渡鹿野の旅客誘引策

志摩的矢村大字渡鹿野貸座敷業者及び□宿屋組合では従来志摩電鉄及参急と連絡を取つて旅客遊覧客の誘引につとめ相当効果を揚げてゐるが、更に旅客の旅行季を期して同地に舞踏場を設けて貸座敷業者□で娼妓の舞踏を宿屋側では同地先海中に鮑を放養て海女の採取作業を行はしめる等、海陸呼応して旅客誘引策を講じ、大々的に宣伝を行ふことゝなつた

⑭昭和八（一九三三）年八月九日

明日開幕 松阪市制実施記念 三重県産業共進会 振興松阪市に産業三重の殿堂 堂々清粋を集む三万点 大規模を誇る偉容（中略）

水族館 第四会場 松阪築港に設け四十五貫と言ふ大海亀を始め、珍しい魚の□は涼味満点で、涼をおふて大口も大賑ひをみせるであらう。海女の作業も魅力のある計画である。

⑮〔昭和九（一九三四）年二月六日〕

狐奇渡鹿野島に硝子張りの浴場 海女の情緒的サービス

最近各交通関係者の宣伝と独特の狐奇的情緒でとみに名声を挙げて来て志摩郡渡鹿野島では、陽春の旅行シーズンを目前に控へてこの際更に一層の都会人誘引策を講ずる事となり、旅館組合と貸座敷組合で種々研究中であつたが、今度いよ々々同島の遊覧地先の海岸に新に約三十間四方の埋立を行ひ、この全面積に総ガラス張の浴場を新設し無料で公開の上、浴みながら太平洋の豪華風景を満喫出来る仕組みとする事になつた、尚この浴場のサービスガールは全部海女が島情緒たつぷりなモン平姿で担任し、都会の御客様にいやと言ふ程ローカルカラーを□す事になつた

⑯昭和九（一九三四）年五月一日

夏をそゝる海女踊り けふデビュー

春や春と桜音頭に浮かれてゐる裡に世は青葉の候となつて速くも巷々には絵日傘がランマンと咲き乱れる、季節は五月、若人の世であり、旅行のシーズンである、さて毎年四五万人の遊覧客を迎へる志摩郡浜島町では、都の珍客の狐奇の好奇心をタツブリ満足せしめ様と御覧の通りの「南洋ぢや美人」を本格的に地で行く海女踊りを創作して、いよ々々けふ一日からデビューする事に成つた（写真有）

⑰『伊勢参宮名所図会』（「阿古木浦」の項）

あこぎといふ名の事或云濃の字をコキと読て安濃浦を誤りたるか○又云あことハ海子の事にてきとは木なるべし、これハ塩木をこく舟積たる事の多きによりてあこぎとはいひたるにや、あこの証歌ハ万葉三に 大宮の内まできこゆあびきすとあこととなふるあまのよひ声云々 ○塩木ハ此浦に古歌多し（中略）

○又あこぎ物語と云にあこぎ平治といふは人の名にあらず、是ハ昔平家の本国は安濃郡なれば平氏を平治と誤りたるなりと云、其物語ニ曰、平氏の族左右馬允貞光が孫右京進盛光が子次盛といひける者、伊勢稼に成りてやゝ任重かりける故、この浦に人を出して網ひかせたり、御贄のおりも妨けるほどに禰宜宮司公ニ訴へけり、次盛是を聞て一族の平氏百二十騎集めそへていよ々々贄の壘を妨ける（中略）

▲小加良須御前社 からすの名ハ今島貫村より東の森にあり、当社ハ矢野村の内にて社地ハ海岸也、岸の松林ハ至而勝景にして末枝を洗ふ墨の江にも勝れり、此磯より漁舟をかり乗れば津の入海に着也、其船路釣をたれて魚を得さしめ又あまのかづきなどさせて興とす（中略）

二見浦 二見ハ清き渚打越浜の辺りの惣名にて此を立石といふハ注連はりし二ツの石に付ていへり、二見の名義説々あれども悉く信ずるに足らず、汐の干ぬればいろいろの貝を拾ひ藻を取、ある時ハ網引などしてあまのしハざとも甚興あり（後略）

⑱式亭三馬『旧本阿漕草紙』（序文）

なき世がたりの色々に、あはれひさしき事ながら、あこぎが浦に住ける平の次盛なん、もとは伊勢平氏なりけるが、ものゝふの心さがなくて、いましめをそむき網を下して、今の代々までかなしきためしを引れ侍るこそ物うきわざなれ。（中略）次盛此おもむき聞えければ、むかしよりこゝはわが任の国なり、一浦など心にまかせざらむや、ひとりなど魚とりたるとて、神膳のたらざるにはいたるまじものを、やをら宮司等が公に告せし事こそ安からね、此上は一族等催して贄どめせよやとて、国の平家百二十騎揃て塔世の橋をきり、粟が原より多門の渚にみちて、あわびとる贄のあまをぞさまたげける。

⑲「旧記」（二見荘区有文書 C-31）（明和九〔一七七二〕年）

一、辰ノ三月十九日、京都御所長橋之局御参宮と申、山田御師七之神主并内宮藤浪様より御馳走有之、立石浜ニ新御休所出来、廿日に浜へ御出、四つゝ八つ過迄御遊、あまをよび鮑をとらせ、網（網カ）を引かせ御慰有之候、御塩殿へも御寄も可有哉と掃地入念、郷中神役壹人宛相詰メ候得共、御立寄無之候、村年寄ハ堅田ニ付ケ指上申候、長橋之局とハ申候得共、仙洞御所と申風聞ニ候

⑳「伊勢 新全集」（絵葉書）

志摩鳥羽海女の作業 渺茫たる太洋一円小舟の散在するは蟹の小舟なり、海上四方に亮々と響くは幾十尋の海底に至り得物取り海上に浮ぶ時の口笛なり。御木本真珠養殖場にては多くこの種の女を雇へり。鳥羽に於ては前面の菅島答志島等に於てこれを見ることを得るら（マ）。又これを雇ひて獲物をとらすことも出来る。故にこの地方に於ては女は男に勝る腕前を有し常に女は男を扶養する位置に立てる。

年次	西暦	月	日	区分	見出し	内容
明治14	1881	8	17	海産	潜水器	客月来志摩国英虞郡波切村以南南張村笠籠村でとこてん古今未曾有、人民は欣喜。
明治16	1883	7	11	潜水器	潜水器試用	山田岩瀬町算曲島載は鮫捕獲潜水器を英虞郡船越村で試用を農商務省に出願、許可を得
明治16	1883	11	30	潜水器	潜水器の鮫漁	志摩国国府甲賀両村で本年五月中潜水器で鮫捕獲並びに売上金高が発表。
明治17	1884	1	5	潜水器	潜水器	英虞郡片田村で潜水器使用試探が実行。漁獲量は海水漁の数十倍、魅力的。
明治17	1884	1	18	海産	不景気	布施田、和具、越賀、御座の4ヶ村は海藻収穫量が多く好況。片田、船越、波切は不景気。
明治17	1884	5	11	村況	感心な婿婦	英虞郡波切の岡具平次後妻ナミは、実子継子の区別なく愛情を持って立派に育てた立派な婿婦。
明治18	1885	7	15	海産	テングサ	和具村は天草の収穫が盛ん。風で大島に流れたが、暴風雨で天草が同浜に流れ着き、喜ぶ。
明治19	1886	12	1	災害	有効の潜水器	ノルマントン号沈没場所を黒田参事官一行探検。片田村濱口清兵衛所有潜水器は海底37mまで沈入。
明治21	1888	6	28	海産	石花菜移植	志州紀州のところが年々陸地に迫る。海底養分欠乏が原因か。早急に対処が必要。
明治24	1891	6	28	出稼	石花菜の採取	二木島で石花菜の採取の最中、志州から海女20名ほどを雇い入れその収穫に当たる。
明治24	1891	7	23	海産	答志英虞通信	英虞郡では不漁が続いたが小鯖大漁で糊口をしのぐ。海藻類も焼揚げが続いたが本年は収穫も多い。
明治24	1891	8	15	観光	鯉漁及び高飛水線の御覧	皇太子殿下は度会郡四郷村の有志が願ひ出た漁の様子や海水に飛び込む様子を御覧になった。
明治25	1892	8	23	出稼	海女の溺死	北輪内村は石花菜採取に御座の海女を雇うが、一人水中で溺死。原因解明まで雇い入れは困難か。
明治25	1892	10	12	村況	英虞郡地方の近況	英虞郡地方は米豊作、豊大漁で好景気。波切村以北各村落は潮草収穫多、海女収入増加、呉服小間物の売上伸び。
明治26	1893	7	7	出稼	志摩便り	昨年に行き続けた御座村海女60余名は北海道利尻島へ石花菜採掘の収穫に出かけた。
明治26	1893	7	14	海産	鶏冠草採取の潜水器	海産中最高値の清国輸出品鶏冠草は潜水器の活躍で収穫高があり、輸出産額の上昇が期待。
明治26	1893	7	21	出稼	北巡録(第三報)	礼文島で石花菜採取に海女30余名を連れ数月前より訪れた越賀村井上太市氏に出会う。片田村橋本本三郎氏が海女24名と上陸。東京銀座安売隊長宗谷岬嶽取兼閉聖百姓谷松平氏の手引き。
明治26	1893	7	22	潜水器	潜水者に電話機を試用せし	外国新聞によると電話機が潜水業者まで普及、潜水者の胃に電話機をつけ通信を可能にした。
明治26	1893	9	3	海産	志摩海産の遺	志州近海でイギリスという寒天製造原料の海藻が発見、御木本幸吉氏により売出しが試みられた。
明治27	1894	6	24	出稼	英虞郡和具村の近報	和具村、昨正月頃より北海道利尻島へ出稼の男女46人より鱈大漁の知らせがあった。
明治27	1894	6	24	出稼	英虞郡和具村の近報	和具村松井弥八氏雇の海女57名男子16名は出稼先の九州が不漁の為、朝鮮竹島に出発。金玉均事件や東学党の乱など情勢が不安定なため家族は心配。
明治28	1895	4	14	出稼	海女、朝鮮に出稼す	志摩の海女10数名一同が渡航免状出願、また15名一団、四団体の出願。国益のため喜ばしい。
明治30	1897	7	29	海産	荒布採取	名切村で荒布採取始まり三日間で十萬貫に及び、相場は一円に付き二十四五貫目、収利過多を推測。
明治32	1899	4	14	出稼	漁業者渡韓	船越村麻吉外5名、片田村竹内トメ外20名、布施田村浦口浅吉外1名、名切村城山サン外21名が漁業の渡韓を出願、許可された。
明治32	1899	4	26	観光	農相海士と撮影	菅根農相が神明浦の御木本幸吉氏の真珠貝養殖場を巡察。海士が真珠貝を採取する姿に感心、一緒に写真。
明治34	1901	4	14	出稼	韓国渡航	和具村山本喜平氏は同志数名と三重県朝鮮海漁組合を組織し大坂海産商と契約をとり、海女の募集を答志村、菅島村にて行い、30名ほど集まる。
明治34	1901	6	21	潜水器	志摩郡甲賀村	甲賀村領海の彼の油瀬、兵庫瀬は鮫の産地で有名であるが、潜水機械を据付好況であるようだ。
明治34	1901	6	21	海産	志摩郡甲賀村	甲賀村の名産で寒天の原料烏足草は、本年は例年より至って少なく、漁業者は頗る愁色あり。
明治35	1902	3	6	出稼	志摩海産同盟会	韓国、伊豆、奥羽、肥前、日向等短期契約の出稼が近年増加。薄給契約もあり、海女・地方経済を守るため志摩同盟会を立ち上げる。今後志摩の出稼人は同会に加盟し態度の軌一を測るべき。
明治35	1902	8	29	海産	沿海婦人の労働	前島地方の婦人は海藻採取が当期の職業であるが、濱島村、御座村、越賀村、和具村、布施田村、片田村、船越村の収入の総計は二十萬円にのぼるとされる。
明治35	1902	9	25	出稼	波切通信	志摩先島地方より朝鮮出稼中の海女は、悪疫流行により一時引き上げ、健康診断を受けている。
明治35	1902	9	25	村況	波切通信	波切通信 波切婦人会は燈火親しむ時期を迎え毎夜2時間づつ讀書裁縫の二課目を仙逸寺で自修している。
明治37	1904	4	27	海産	海女海底に大鮫を捕獲す	自村の前浜『ワタリ』にてワカメを採取中、十貫余の大鮫を発見し布施田村濱口の小まさは、格闘の末捕獲し隣家、親戚知己で分けた。
明治37	1904	6	22	出稼	蔚山近海の探検	蔚山湾口へ釜山口森野組網屋を移設。20人の潜水婦人1人あたりの漁獲は平均貝附5貫目余。漁獲高千貫目余。
明治37	1904	9	16	村況	豪胆なる海女の平生	以前紹介の布施田村小まさは、豪胆な性格と多収穫でオカズキ(磯の達人)として恐れられている。
明治39	1906	1	18	海産	志摩通信	昨年中の儲け口は沃度師と売炭屋、昆布鮫大漁で海女は一人三四百円のお金儲け者あり
明治39	1906	9	29	災害	海女の溺死	濱島村の森とも(34)は予ての異常により同村宇カナガタン海産で海女漁の最中溺死した。
明治42	1909	2	23	村況	志摩の奇習娘の鮫捕(其一)	海岸線が長いことは日本の特徴だが特に志摩では漁村個数2万戸、海女10万人、その産出額は捕鯨も合わせると一千万円の水揚げ高に及び、水産県としてその名に恥じないものである。
明治42	1909	2	24	村況	志摩の奇習娘の鮫捕(其二)	日本三大港の一つ伊勢内湾は多種類の生物が存在、年中漁業が可能。収穫物は東京又は大阪に搬送。中でも伊勢海老鮫は収穫時にも特別な存在として扱われている。
明治42	1909	2	25	村況	志摩の奇習娘の鮫捕(其三)	志摩の海女業の技術は高く潜水機械では不可能な海藻も収穫可能。娘たちは幼いころから海に親しみ、17、18歳で一家の働き手となる。貧富に関係なく海女として働くことで一人前と認められる。
明治42	1909	2	27	村況	志摩の奇習娘の鮫捕(其四)	志摩では女子が重宝され海女に養成される。嫁入り後も一家の働き手として働く。就学児童も女子の方が多い。水温が高いため雪の日でも海にはいり働く事を厭わない。

明治42	1909	4	1	出稼	渡航船婦の風俗取締	名切村地方では募集人を介して韓国へ出稼に出る海女が多く、近年では誘拐などの弊害が問題となり紹介業者取締規則を強化している。
明治42	1909	6	2	村況	本邦鮫漁の起源と製斗鮫の由来	海女業という日本独自の技術が欧州で話題に。海女の起源は長岡村海士潜女神社祭神とされている。伝説では倭姫命に御饗調進を命じられた海女おべんが乾燥鮫を献上し、製斗鮫の起源となった。
明治43	1910	4	24	出稼	韓海に活動する志摩の海女	韓海に活動する志摩の海女は、合間で農業を行う。韓国に出稼に行く者も多く、高収入を得ているが墜落して情夫をつくり帰国しない海女がいるなど募集人に対する取り締まりも強くなった。
明治43	1910	11	14	村況	志摩と高齢者(一)	志摩は県内でも女性の高齢者が多いが、海女漁に理由があると考えている。厳しい労働であるが、海女になることで一人前として認められる。幼い頃から海に出、家計を助ける喜びを感じて成長する。
明治43	1910	11	15	村況	志摩と高齢者(二)	海女は24、5歳が盛りで、一家収入の大半を稼ぐ。嫁入り後は子供を海女に養成することに力を入れる。娘がない家庭では養子縁組をする。彼女等は非常に働き者で、益踊りを唯一の楽しみとしている。
明治43	1910	11	16	村況	志摩と高齢者(三)	志摩では自由結婚が殆どである。若い夫を支えてこそ立派な海女と考えられている。養子縁組などから海女の人口が増え、海外へ遠征に出る者も多い。
明治44	1911	3	13	災害	赤潮被害の惨状(一)	五ヶ所湾内で発生した赤潮の被害は広がり、養殖真珠と漁業に大きな影響を与えている。養殖真珠を移植させる為に海女が潜り作業を続けている。
明治44	1911	3	15	災害	赤潮被害の惨状(二)	赤潮の被害回避に養殖真珠移植作業の海女は、暗闇手探りの作業で頭部を打ち付ける被害が出た。
明治44	1911	3	16	災害	赤潮被害の惨状(四)	赤潮と草魚が真珠に被害をもたらす。養殖場の海女は30名ほど。御木本氏は毎朝海女と同じ物を食べ、海にも入り労苦を共にする。
明治44	1911	5	23	観光	天然真珠の献上	陛下が二見に御参りの際、真珠取り作業をご覧になる。御木本場主は技術の高い海女を選別し、万全の体制でお迎えた。海女が取った貝類を選別し、真珠のすべてを献上。
明治44	1911	5	25	観光	夫婦岩を御下	二見浦で陛下は夫婦岩や海女作業、風俗について質問。海女の真珠採取、選別作業をご覧、満足。
明治44	1911	6	23	観光	海女作業余興	鳥羽線開通式の余興に御木本真珠養殖場の海女作業。服装は全て皇后お覧の時の如し。
明治44	1911	6	25	観光	海女作業場新設計画	御木本幸吉氏は鳥羽線開通にあたり、遊客獲得のため海女作業場を港付近に新設する計画。
明治44	1911	7	2	観光	海女作業場着手	鳥羽の海女新作業場設立にあたり、鳥羽漁業組合、小浜漁業組合に弁償金を支払い工事が着手。
明治44	1911	12	5	災害	志摩の女王	崎崎沖難破の春雨艦の勇士亡骸を長岡、安乗、的矢海女等が引き揚げ。尊敬の念と感謝すべき事柄。
明治44	1911	12	8	災害	暖かき館長の心	春雨艦難破で出張の佐世保水雷駆逐艦長海軍大佐森氏は、死体引き揚げに貢献した長岡、安乗、的矢の若き海女達、村民も死者を手厚く葬ったことを賞する。
明治45	1912	1	4	村況	濱口片田村	志摩郡で2番目に高齢の片田村しかは103歳、若い頃は海女。人柄は温和で穏やかに暮らす。
明治45	1912	4	23	村況	稀代の珠貝	安乗村山忠五郎娘すまは海女漁で小さな鮫から金色珍珠を発見。御木本氏から200円で買取の朝もあつたが家宝とするため断る。
大正1	1912	8	17	災害	海女の溺死	朝倉村大野まつのは見江島で兎草を採取中大波にさらわれ岩石で負傷、喰切り虎尾魚と称する漁族に襲われて溺死。
大正1	1912	10	6	村況	断浦浦口	布施田村の浦口糸は夫の死後海女、農業、豆腐作りなどで働き、姑や子供の世話まで立派に勤め上げた節女で、この度斯民会から表彰された。
大正1	1912	12	22	村況	志摩物語(四)	御座村には海産で有名な不動明王があり志摩以外からも参拝者が訪れる。ほとんどの海女は2月ごろ紀州地方へ出稼ぎに出かける。青年会は加茂村に次ぐ発達、村長山本伊右衛門父子の将棋は有名。
大正2	1913	4	14	村況	海女の(一)	志摩には海女という不思議な風俗。倭姫命以来毎年6月に伊勢神宮に鮫奉納。雪の降る日も海にはいり、収入があっても着飾らず白湯巻一枚で過ごす婦人が殆どである。
大正2	1913	4	15	村況	海女の(二)	海女は海中でも水夫から分る様に白湯巻を着るが、水夫の呼吸は大切で夫が水夫を務める。和具村では年収五千円に達し、布施田村、園崎村、答志村、神島村、相差村等でも殆どが海女働きに出る。
大正2	1913	4	17	村況	海女の(三)	志州沿岸では海女となる女子が重宝され、伊賀伊勢から養子に迎える事も多い。彼女等は紀州や満州、朝鮮、蒙州沿岸にまで出稼ぎに行く。結婚しても持参品は浮桶くらいで一家を養う為に働く。
大正2	1913	5	31	海産	寒天産況と輸	我国特有の産物寒天の原料石花菜は産額減退するが海外の需要は伸び、全世界に及んでい
大正2	1913	11	22	村況	志摩巡礼(十九)	神島の青年会でも最も誇りは難破船救助。処女も海女となり他地方へ出稼ぎに出る者が多い。
大正2	1913	12	2	村況	志摩巡礼(二十八)	相差村では男は海で働き、留守を守る女が中心となって農業やその他の仕事に従事。青年会にも女が所属し夜学や講習会を受けている。海産をとるのも女が中心で男は運び役に徹する有様。
大正2	1913	12	11	村況	志摩巡礼(三十三)	波切村は志摩が一番景気の良い魚市場が朝晩2回開かれる。女子が長生で、また海女となるべく他地方から養子を迎えるので女子の方が九百人も多い。地方独特の寝居の習慣が生まれ
大正2	1913	12	18	村況	志摩巡礼(三十七)	和具村と布施田村で大島小島の所有権について大論争、布施田村の所有との裁許。経済的に非常な苦しかった和具村が村長は勤儉、娘達は海女となり朝鮮まで出稼ぎに行くこともある。
大正2	1913	12	19	出稼	志摩巡礼(三十八)	数年前、朝鮮に出稼ぐ海女達の送別会が開かれた。心配をさせぬ為乱暴狼藉を働く海女もいたが、出発際には家族との別れに涙を流し、漁にも出ず安否を祈る。
大正3	1914	1	30	出稼	朝鮮漁業と本	丹羽幸太郎氏は、朝鮮の三重県漁民は地曳網や海女の出稼ぎ者二百人らの活躍を述べる。
大正3	1914	2	18	村況	志摩漁業改良	志摩漁業は海藻採取に重きを置く小規模近海漁業。焼揚げと不漁の影響があり、漁村救済と漁業改良を目的として漁業組合の理事会が開かれ焼揚げ対策などが決定した。
大正3	1914	4	30	出稼	済州島の惨事	済州島の海女ら130名は蔚山湾の海軍採集のために4月15日に出船したが、巨文島付近で暴風に遭い漁船が転覆。乗組員全員が行方不明となり、後の捜索の結果90名の死体を発見した。
大正3	1914	6	19	出稼	鮮海漁業一班	三重県漁業従業者の朝鮮における状況。鮮海漁業団と海女移住漁業団併合によって、大正元年に組織された三重県遠洋漁業団の活動内容について。
大正3	1914	6	20	村況	長島通信(北半)	目下海女の採草期に臨し、採草額多量。

